**少頭羽数飼養者用　飼養衛生管理マニュアル作成例**

○衛生管理区域の設定

注）衛生管理区域とは、家畜を飼養する場所やその周辺の飼料倉庫等、病原体の侵入を防止するための衛生的な管理が必要な区域のこと（参考に設定例を記載）。

衛生管理区域設定例

更衣室

手洗い場

踏込消毒槽

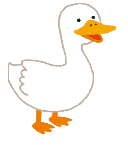
出入口

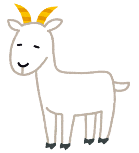
飼養場所



出入口

立て看板





飼料倉庫

* 次のとおり、衛生管理区域を設定する（点線囲い部分）。ふれあいは衛生管理区域内でのみ実施する。
* 渡航歴のある人は、原則海外から帰国後１週間以内の人は衛生管理区域に入ることができない。
* 農場内に他農場等で使用した物品は持ち込まない。
* 衛生管理区域に食品（特に肉製品）を持ち込まない。
* 来場者の車両は衛生管理区域外に駐車する。
* やむを得ず衛生管理区域に車両が入る場合には動力噴霧器等で消毒する。
* 出入口に消毒マットや踏込消毒槽を設置し、毎日消毒液の点検をし、足りない場合は補充する。
* 手洗い場を設置。手洗い場には手指洗浄液（ハンドソープ等）及び消毒用アルコールを設置し、毎日点検し、足りない場合は補充。

○関係者（先生、学生、園児、保護者等）への協力依頼

* + 口頭、校内放送、パンフレット、ウェブサイト、入口の表示（看板等）等で家畜伝染病（高病原性鳥インフルエンザ、豚熱、口蹄疫等）の発生予防のため、当マニュアルの内容を周知する。

○衛生管理区域及び飼養場所に入る際の動作フロー

* 定期的に、噴霧式消毒器等で飼養場所を消毒。
* 衛生管理区域に入る時は、専用衣服（洗濯済みや公園等に行く前の汚れていない服も可）、手指の洗浄・消毒または使い捨て手袋の着用、専用靴に履き替える（専用衣服、靴、手袋は屋内もしくはロッカー等で保管しておく）。

専用の更衣室があるのが望ましいが、ない場合は他の屋内で代用。

1. 手指の洗浄・消毒
2. 外靴を脱ぐ
3. 専用衣服を着る
4. 専用靴を履く
5. （使い捨て手袋をする）

* 世話が終わったら、更衣室または着替える場所に戻って専用衣服、専用靴を脱ぐ。
  1. 専用靴を脱ぎ、ブラシ等で洗浄後、消毒
  2. 専用衣服を脱ぎ、洗濯用かごに入れる
  3. （使い捨て手袋はゴミ箱に捨てる）
  4. 手指を洗浄し、アルコール消毒

○手指、衣服、靴、車両、施設の洗浄と消毒（消毒方法、消毒薬等）

注）複数人で作業しても何をするかわかるように、消毒薬作成手順書及び作業日誌を作成し、記録する

* + 消毒前の汚物の除去、十分量の消毒薬の浸透が重要
  + 対象物に応じた消毒方法を実施
    1. 靴の洗浄・消毒または畜舎入口で専用の靴に履き替える（履き替えの場合、洗浄・消毒は必要ない）
       1. 消毒槽（消毒薬例：塩化ベンザルコニウムを500倍希釈）を飼養場所の出入口に設置
       2. 人工芝マット等の上で靴裏の土を念入りに落とす
       3. 消毒槽に漬ける（靴底全体を浸すことが重要）
       4. 乾燥
    2. 手指の洗浄・消毒

1. 水道で手を洗浄または飼養衛生管理区域・畜舎出入口で手に洗浄用スプレーを吹きかけ、ペーパータオルで拭く
2. 衛生管理区域境界および飼養場所境界で、アルコールスプレーを手全体がしっとりする程度に吹きかける
3. 消毒薬を揉み込むように手のひら・甲・指の間・手首を消毒する
   * 1. 衣服の洗浄・消毒
4. 大まかな汚れを落とす
5. 飼養場所出入口で、大きめのバケツに入れた消毒薬（例：塩化ベンザルコニウムを500倍希釈）に一晩浸漬
6. 洗濯
7. 天日干しで一晩乾燥

　　　　　※衣服の交換ができない場合

　　　　　　(ア)衣服の汚れを落とす

　　　　　　(イ)アルコールスプレーで衣類の表面を消毒する

* + 1. 車両の洗浄・消毒

1. 衛生管理区域境界で車体を洗浄した後、消毒薬（例：塩化ベンザルコニウムを500倍希釈）で消毒し、タイヤ周りは特に入念に消毒
2. フロアマットは交換し、ペダルを消毒
3. ハンドル、シフト、スイッチ類など身体が触れる所は消毒液を含ませた布等で消毒
   * 1. 家畜の世話に使用する物品の扱い
4. 他の家畜の飼養場所で使用した物品や海外で使用した衣服は持ち込まな　　い
5. 家畜の世話に使用する物品、工具、機材等を持ち込む場合は煮沸消毒する
   1. 沸騰水中で加熱（80℃以上、5分間）
   2. 水滴をペーパータオル（使い捨て）でふき取るかアルコールスプレーで消毒する。

○野生動物（ネズミ、ハト等）の侵入防止対策

* 餌やり後速やかに、飼養場所の外にこぼれている餌や食べ残しを片付ける
* 飼養場所の環境を整える

1. 毎週○曜日、柵やネットが壊れていないか、野生動物の侵入がないか確認
2. 毎週○曜日に周囲の状況を確認し、必要に応じて除草
3. 毎週○曜日に飼養場所を整理整頓する

* ネズミ対策（ネズミの侵入跡が見られたら次の措置を講じる）

1. ネズミの侵入対策で、粘着シートを設置
2. ネズミの侵入状況チェック表を作成
3. 毎週○曜日、ネズミの侵入跡と粘着シートを確認し、チェック表に記録
4. 侵入跡を見つけた場合はそこに粘着シートを設置し、殺鼠剤を撒く

* 家畜が死んだ場合には、死んでいる様子に異常がないか確認し、野生動物が寄り付かないように適切に処理する

○家畜の健康観察

* 毎日、家畜の健康状態を確認。

○異状確認時の通報ルール

* 家畜の異状を確認した場合、かかりつけの○○動物病院または○○獣医師に診療を依頼。
* 口蹄疫、豚熱、アフリカ豚熱、高病原性鳥インフルエンザ等を疑う症状を発見した場合、直ちに神奈川県県央家畜保健衛生所（046-238-9111）または湘南家畜保健衛生所（0463-58-0152）に連絡し、家畜保健衛生所の指示・指導に従う。

注）所在地によって所管する家畜保健衛生所が異なる。次の表を参照。

|  |  |
| --- | --- |
| 家畜保健衛生所名 | 管轄地域 |
| 県央家畜保健衛生所 | 横浜市、川崎市、相模原市、横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、三浦郡、愛甲郡 |
| 湘南家畜保健衛生所 | 平塚市、藤沢市、小田原市、茅ケ崎市、秦野市、伊勢原市、南足柄市、高座郡、中郡、足柄上郡、足柄下郡 |

* 国内/県内/飼養場所内で家畜伝染病が発生している場合の対応（ケースバイケース）

1. 国内（県内及び周辺県除く）で発生した場合

衛生管理区域の消毒を徹底し、ふれあいの中止や入場者の制限を検討

1. 周辺県で発生した場合

放牧・飼養場所での見学を中止し、ふれあいを中止や入場者の制限。

1. 飼養場所内あるいは県内で発生した場合

衛生管理区域への関係者以外の立入を中止。